

JUN. 1995 No.10

# 千葉菌類談話会通信

## CHIBA MYCOLOGICAL CLUB BULLETIN



Hikosaburo Morimoto  
Father of Mushroom in Japan

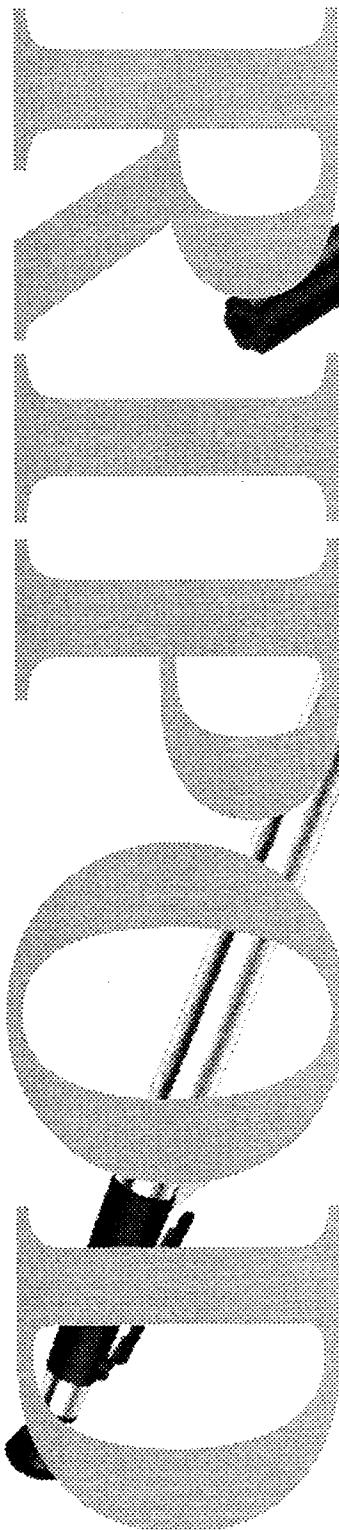
### 目 次

- わたしの三脚 ..... 2  
総会、採集会の案内 ..... 6

- 会員からのメッセージ ..... 7  
菌学講座の案内、幹事会報告 ..... 8  
表紙によせて ..... 9

# 私の三脚

池田 和加男



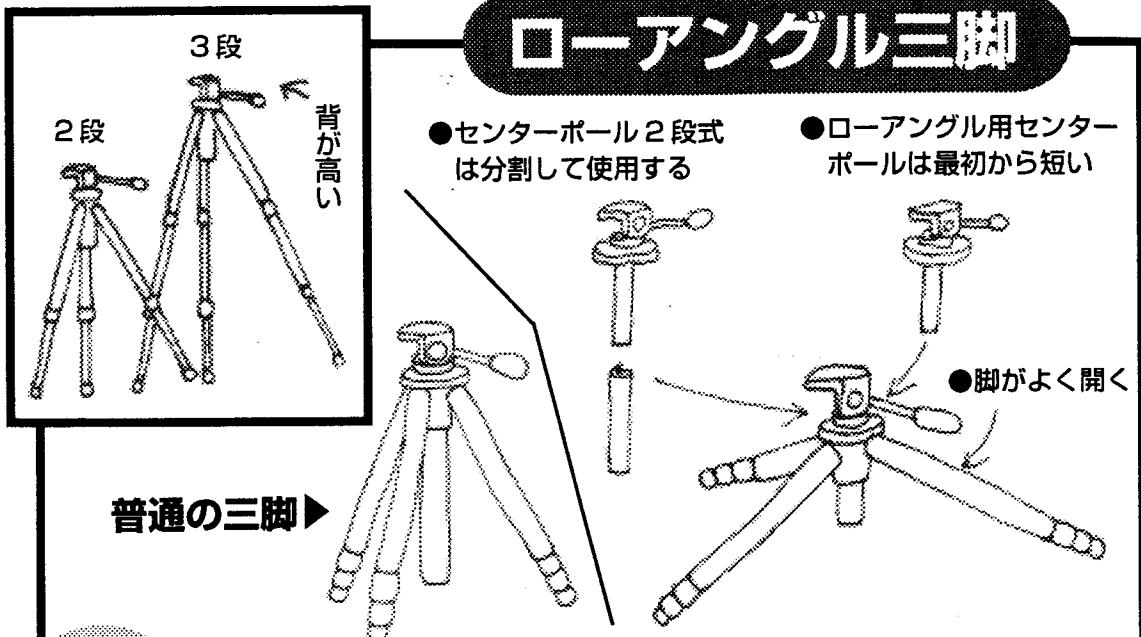
きのこ撮影用三脚について何か書くようにとのことでお話がありましたので、今までの私なりの体験と考えについて書いてみたいと思います。

1950年代と思われる頃、エレベーター三脚なる物がケンコーより発売されました。これには三脚の脚が2段と3段に伸長する2機種があり、私は安価な2段の物を手にして、長い間使用していました。しかし、植物の接写をするようになると、この三脚は何かと不便となり、ローイング用に改造して一時使用していた時期もありますが、一般的の撮影と兼用が不便でした。現在は多くのメーカーより、ローイング三脚が発売されているので、そのような苦労をすることがないのですが、いざ市販されている三脚を使用してみると、思うように使い勝手の良い機種が見当たらないのが現状ではないでしょうか。別表に今まで使用したローイングの機種とその使用感を記してみました。現在これ以外に多くの機種が市販されていますが、フィルム代にお金がかさみ多くの物を使用して見る余裕がありません。

通称「伝道師」と言われている森泰生さん（スリック取締役広報部長でカメラショウの会場で三脚の説明をされている方）は、雑誌等で豊富な自社の三脚について多くの紹介記事を書いていらっしゃいます。しかし、私は野生茸、変形菌等の撮影でローイングの物として使ってみたいものはありません。特にスリックユニバーサル88デラックスは使いにくかったです。

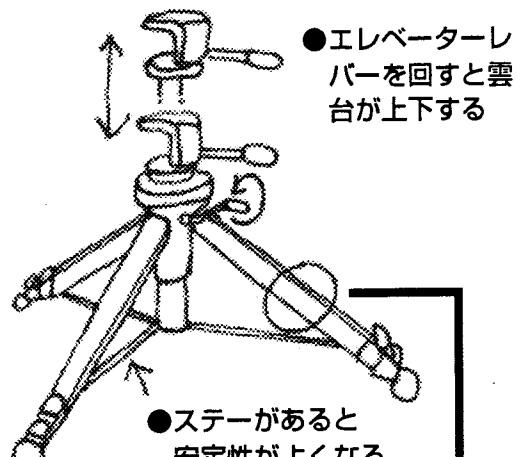
三脚の理想条件である携帯性と安定性は相反するものです。三脚の重量が大きい方が安定性は増しますが、携帯性を考えると軽い方が良いに決まっています。また、伸長段数も少ない方が安定性はあるのですが、長く伸びる方が高い枝についたキノコも撮影することができます。これらの条件の兼ね合いがなかなか難しいところです。

# ローアングル三脚



## 脚の脚と安定性

三脚の脚の素材として、丸い金属パイプ材、金属U字材（チャンネル形）、樹脂材のものがあります。パイプ材の場合、脚を伸長して固定する“ネジ締付”方式が多いので、脚を伸ばしたり縮めたりしたあと、固定するまでの時間がかかります。一方、チャンネル材の場合、脚の固定がレバーの開閉一動作でセットできる“レバー方式”です。しかも“レバー方式”は締め付け圧が一定となり、“ネジ締付”方式と比べ締付不足というようなことがおこりにくいという長所があります。“ネジ締付”的場合はときどき締め付けるのを忘れてしまうことがあります。また、丸い金属パイプ材の場合、三脚の中心パイプより、各脚への支持材（ステー）がついていないものが多いようです。脚を大きな角度に開く場合、安定性には必要と思われます。あるカメラショウの会場で「この三脚は耐加重何Kgですか」と係員に聞いたことがあります、その時係の人が上から片手で三脚を押したところ「クシャッ」と潰れてしまったのを見たことがあります。以上のことを考えると、三脚をセットする場合、安定するように地面に押し付けることが一つの方法と私は考えています。特に地面の柔らかい所での撮影は注意が必要であろうと思います。



## 金属U字材

（チャンネル形）



## 丸い金属パイプ材



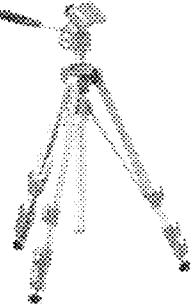
イラスト: by Osaku

# 各

## 社ローアングル三脚の使用感

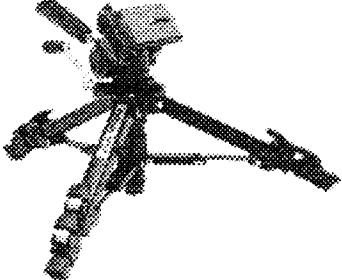
### ベルボン SEF-3

脚の固定は“レバー方式”です。このレバーの止め金が脚の外側にあるために、やぶ等を通るときはレバーに小枝、つる植物等が引っかかることが多いという欠点があります。私の物は脚の開閉にムラが多く、そこを分解してみると薄い金属片のライナーにより硬さの調整をしていました。この三脚は小型のわりに重いのですが、脚には中芯ポールに向って支持材（ステー）が付いているので安定性はあります。センター・ポールは接続式（ポールが2分割される）です。ローアングル仕様のセンター・ポールは売っていないません。



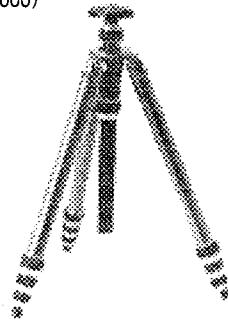
### ベルボンミニ F

脚の形体は左記の物と同様ですが、小型のために安定性に不安があります。脚が短いために、脚を広げたときの脚の描く三角形の面積が小さく、地面の柔らかいところ、または、落葉の多いような所では安定性を欠き注意が必要です。撮影するレンズも標準50mm程度の物以上は無理かと思われます。しかし、小型軽量であるので携帯性はよい三脚です。以前の機械式セルフタイマーでの撮影は無理かと思われます。



### ジッツオ # 435 CL

小型軽量であるために、現在一番多く使用しています。4段伸長のため4段目の脚はたいへん細くなっています。私は全部を伸ばして使用する勇気はありません。ところが、この細い脚のみを伸ばして接写しているカメラマンを見たことがあります。世の中は様々です。この機種は脚の付け根に開脚用の爪がありますが、その操作は面倒です。センター・ポールは普通撮影用と接写用の2種を差し替えることができるようになっていますが、このポールが案外高価です。（別売り￥5,000）



### スリックユニバーサル 88デラックス

この機種のみカタログを見て注文して購入しました。失敗の實物、2~3週間使用したのみで友人のところに置いてあります。総樹脂製で何となくゴツゴツした感じ、携帯性はよくありません。脚の形状はチャンネル形。センター・ポールは接続式、望遠レンズのサポーター取付、フラッシュガン取付等、種々の附属品の取り付けがこの三脚にはできるようになっています。しかし、機能盛り沢山はどうでしょうか？ 私はシンプルが良いと思います。

### リンホフ ライトウェイヒロ

この三脚は精密機械のようです。前記のベルボンと同様、脚材の形状は金属U字材（チャンネル形）ですが、脚の固定レバーは内側にあります。レバーを開くと脚が気持ちよくスッと伸びてきます。ものの本によると、脚の伸長部分に砂をかむと動かなくなることがあるということです。ベルボンと比較することは無理かもしれません、何かにつけて良好な使用感があります。2段伸長のため大型、その割に軽い。大型カメラの4×5版でも使用できるのではないか、と思われるような丈夫さがあります。脚の開脚角度は自由に設定することができるよう、レバー式の固定装置がついています。脚の付け根の台座が大きく、水平ゲージが付いています。センター・ポールは差し替え式で、ローアングル用と一般用の2種が用意されています。ポールは35mmと太い。現在はカメラメーカーとして有名なリンホフ社ですが、以前は三脚メーカーであったと何かの本でみたことがあります。

※以下の三脚は雲台付きで販売されているものもあるが、この表は三脚のみの重さと価格です。

機種名	段数	伸長(cm)	縮長(cm)	ロー高(cm)	重量(kg)	価格(円)
ベルボン SEF-3	3	150	61	24	2.1	16,600
ベルボンミニ F	3	55	30	20	0.9	7,500
リンホフ ライトウェイヒロ (センター・ポール長・短1本付き)	2	155	61	18	2.2	57,000
スリック ユニバーサル88デラックス	3	150	62	25(?)	1.81	13,200
ジッツオ # 435 CL (センター・ポール長・短1本付き)	4	135	38	13	1.3	27,000

## ●雲台

機種名	重量(kg)	価格(円)
スリックエクストラフォー	0.44	6,600
ベルボンSEF-3の雲台	0.5	5,400
ベルボンミニFの雲台	0.2	2,800

## ●自由雲台

機種名	重量(kg)	価格(円)
ジツツオ # 300	0.68	28,000
カルマンボールヘッドM LPL扱い	0.21	5,800
スリック 2114	0.13	3,600
ライツ	0.25	15,000

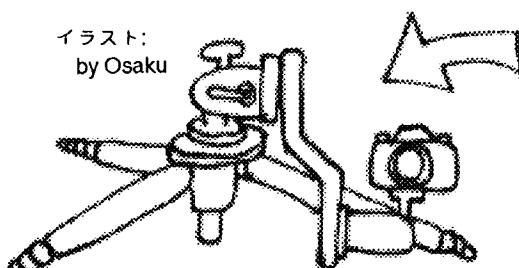
## ●アングル微動調整台



機種名	重量(kg)	価格(円)	使用方法
LPL アングル微動雲台	0.35	8,900	カメラを上下左右に動かす
ペンタックス微動装置3形	0.45	4,800	カメラを前後方向に動かす

現在私は、雲台を2段組み合わせて使用しています。その組み合わせは、ジツツオ社製三脚に、1段目としてスリック社の雲台（エクセラフォの雲台を改造）を付け、その上に2段目となるボールヘッド自由雲台（ライツ社、もしくはカルマン社のボールヘッドM）を付けて使っています。また地面にへばり付いているような植物の場合は、自作アダプターを使用することがあります。これでカメラは0cmまでにすることが出来ますが、安定性は良くありません。そのために、アダプターの一点、もしくはカメラか何かが固定物と接するよう（地面でも良い）セットすることが必要です。とにかくシャッターが落ちる振動を何かで吸収が必要です。ペローズ使用の時は、特に振動に注意が必要となります。私は別表の物を組み合せて使用しています。

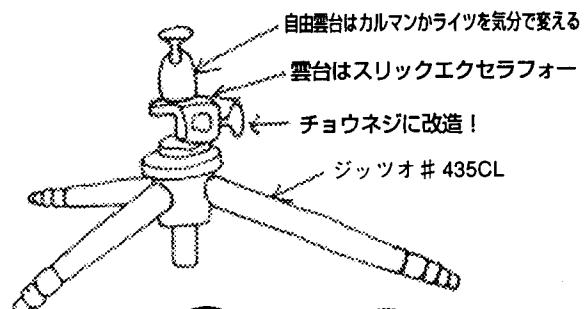
LPLアングル微動雲台は拡大接写の場合の構図設定には便利です。フォーカッキングレールは一方向のみ動くものが良いと考えています。



す。アサヒペンタックスの2本レールの物を使っています。横方向に動かすことは必要ないを考えます。

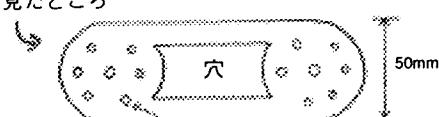
以上、三脚を新に購入される方々の参考の一助となればさいわいです。

## 池田さんの三脚セット

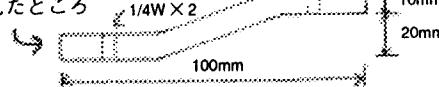


## 池田さん特製 アルミ製ローアングルアダプター

上から見たところ



横から見たところ

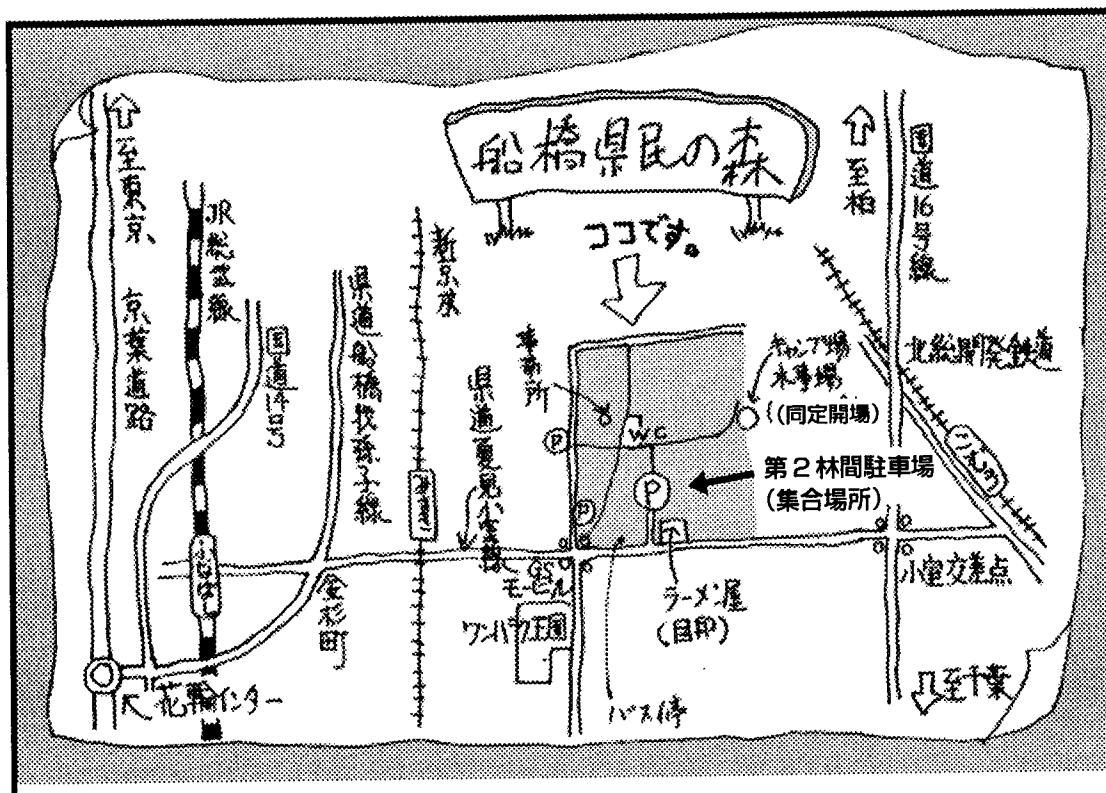




## 第3回総会および第12回採集会 を以下のように行います。

- 日 時／7月8日(土) 総会／10:00～10:30  
採集会／10:30～15:30
- 場 所／船橋県民の森（下図参照）  
船橋市大神保586-2 TEL0474-57-4094
- 集 合／10:00に第2林間駐車場 \*雨天決行
- 同定会場／キャンプ場炊事場付近で13:30頃から行う予定です。
- 持 物／昼食、採集道具他 ●会費／100円
- 担 当／相京 康 TEL(043-279-6860)  
大作晃一 TEL(0471-53-5796)

- 申 込／6月30日迄に参加日、住所、氏名、人数を必ず明記して事務局へふつうの葉書でお申し込みください。当日は、傷害保険には加入していませんので、各自ケガ、事故等のないようにご注意下さい。



交 通：新京成バス (0474-43-2036) で、いずれも「県民の森」で下車。

●新京成三咲駅から「小室駅」、「豊富農協前」、「くらもと記念病院」行にて約15分（これはわりと本数ある）

●JR船橋駅（北口）から「小室駅」、「豊富農協前」行にて約40分(9:10発)

●小室駅から「JR船橋駅北口」行 (9:20発)、「北習志野」行 (9:53発)にて約15分

★バスの時刻は 95.5.26 日現在

## ■会員からのメッセージ ■ キノコ・きのこ・木の子 中石 敬二

夕

ケノコは成長すると竹になる。名前とのおり竹の子である。しかし、

キノコはいつまでたっても木にはならない。でも、キノコなのである。この不思議なものにいつから取り付かれたのだろう。私の生まれた熊本では、ナバといい、庭の朽ち木によく生えていたのを、祖母が「また、ナバがはえとる。」と言っていた言葉が、すり込まれたのか、最近は一年中暇を見つけてはキノコを追い回している。

3月までいた福岡には、「福岡菌食友の会」がある。なぜ「キノコの会」でなく「菌食」かというと、よりキノコに親しみ、より美味しく食べようではないか....ということらしい。例年、4~5回の観察会のほか、秋に

### 4/5 シイタケ

*Lentinus edodes* (Berk.) Sing.

#### ●市原市民の森

東西に走る稜線部、陽当たり、風通しは比較的よい。散策路横のクリの倒木に、やや乾燥気味の10枚数枚を発見。4~12cmの手ごろな大きさのものを5~6枚持ち帰る。野菜いために入れ食す。

### ショウロ 4/29

*Rhizopogon rubescens* (Tul.) Tul.

#### ●蓮沼海浜公園

砂状に1/3程顔を出している人指し指大2個を採集。椀種とする。今一つ香にかけるような気がするが歯切れは良い。

福岡からいらした中石さんから、福岡のキノコの会の紹介と、千葉でさっそく食したというキノコについてのお便りをいただきました。

1~2回のキノコ鍋を恒例としている。仕事の関係で、一年間、千葉でお世話になります。福岡へお越しの時は、ご連絡下さい。  
(会長 福田正博 092-681-3189、中川敬二 0436-23-2631)

さて、4月初めに市原に住み着き、周辺をまわりはじめました....

### ヒトニタケ

4/28

*Coprinus atramentarius* (Bull. : Fr.) Fr.

#### ●市原市能溝

草地に株立ち状で散在、土はよく湿り陽あたりはよくない。周りに樹木はない。傘、柄がしっかりしているのを10本ほど採る。さっそく油でいためるが、傘の液化が起こり、いためたもの全てが黒くなるが食す。コブリンが含まれ数日は酒が飲めないというが、私の体質かほとんど悪酔いをしない...?美味しいキノコではない。



### 4/29 アミタケ

*Suillus bovinus* (L. : Fr.) O.Kuntze

#### ●蓮沼海浜公園

先にキノコ採りに入った人が、老菌をけちらした後が、数カ所にある。20~30個を採集し佃煮にする。煮ると紫色になり、ぬめりが何ともいえない。久しぶりのアミタケである。



# 中央博物館主催の「菌学講座」のご案内

## ①開催日時・講座名

第1回 95年10月1日(日)「ハラタケ目講座」講師:本郷次雄(滋賀大学名誉教授)

第2回 96年1月21日(日)「子囊菌の分類 Plectomycetes, Pyrenomycetes」  
講師:堀江義一(中央博物館)

第3回 96年3月3日(日)「キノコの見分け方入門」講師:吹春俊光(中央博物館)

第4回 96年3月17日(日)「チャワンタケ類の分類」講師:長尾英幸(千葉大学園芸学部)

\*いずれも午前10時~午後3時まで。定員16名。参加費無料。

## ②場所

千葉県立中央博物館研修室

## ③申し込み方法

参加ご希望の方は各講座開催日の1ヶ月前から2週間前までに、下記宛先まで往復葉書で、年齢・住所・電話番号を明記の上お申し込み下さい。申し込み多数の場合は抽選となります。なお、各講座は独立した講座となっており、それぞれ御申込頂けます。また連続して参加ご希望の方はその旨明記して一枚の往復ハガキでお申込み下さい。

## ④申し込み先

千葉県立中央博物館植物学研究科、第〇回菌類講座「・・・について」

〒260 千葉市中央区青葉町955-2番地 電話:043-265-3921(植物学研究科)

## 幹事会報告

4月8日に幹事会を開き、以下のように95年度の役員と行事予定の話し合が行われました。会報編集は野村麻結実さんのあとをうけ、新たに近田さんご夫妻と、事務局には徳田さんにお願いすることになりました。また、95年度から県外協力幹事を協力幹事と名称を変更しました。

### 1. 95年度千葉菌類談話会役員(50音順)

会長:腰野文男

採集・企画幹事:相京康、阿倍代始子、石田いし子、大作晃一、吉田幸二、吉田悦子

会報編集幹事:小沼良子、北川公子、小西弘倫、近田隆、近田節子、

事務局担当:小沼良子、北川公子、徳田あゆみ、吹春俊光

協力幹事:池田和加男、菊池栄子、矢部和子

図鑑編集幹事:大作晃一、腰野文男、佐野悦三、吹春俊光

### 2. 95年度行事予定

#### 1) 総会

第3回 95年7月8日(土) 船橋県民の森 \*別記参照(P6)

#### 2) 講座

第4回 95年12月23、24日 腹菌類 講師:吉見昭一

#### 3) 採集会

第12回 95年7月8日(土) 船橋県民の森(担当:相京、大作) \*別記参照(P6)

第13回 95年8月30日(土) 泉自然公園 講師:本郷次雄(担当:阿部、石田)

第14回 95年10月21日(土) 市原市民の森(担当:吉田夫妻)

#### 4) スライド大会と懇親会

第4回 95年12月2日(土) 中央博物館会議室

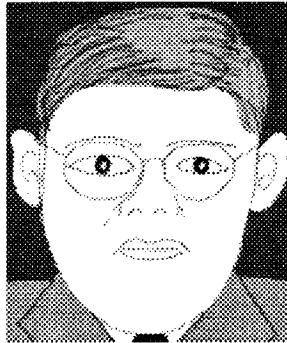
(担当:企画、大作、佐野 会場:北川、菊地 会場準備:石田、吉田夫妻 懇親会:相京)

#### 5) 会報発行予定

年3回(5月、8月、1月) 発行予定

# ■表紙によせて キノコ栽培の父 森本彦三郎

●小沼 良子（文・イラスト）



そのマッシュルームの栽培に日本で初めて成功し、今日、日本の家庭の食卓を賑わすキノコの一つに数えられるまでにしたのが今回の表紙を飾った森本彦三郎氏です。

キノコ栽培に命をかけた彦三郎は、明治19年(1886)8月11日、和歌山県で生まれました。英語が好きだった彼は、県立和歌山中学校を卒業した18歳の時、「文明のすんだアメリカにいって、何か新しいことを学びたい」と渡米します。最初に働いていた食堂でマッシュルーム栽培の話を聞き、彼はそれを将来の目標と心に決め、キノコやその栽培法の勉強をはじめます。しかし、そのころアメリカやヨーロッパにおけるマッシュルームの栽培法は秘密とされていたので、書籍や雑誌だけではポイントとなるところがわからず、栽培場でアルバイトをしてその秘密技術を探るなど研究を続けます。明治45年(1912)によくやく栽培に成功。そのころ果樹園経営にものりだしていた彼はマッシュルーム栽培も事業として軌道にのせます。

これらの成功に、帰国して日本でマッシュルーム栽培を広めようと考えていたところ、栽培場見学の話が舞い込み、大正9年(1920)にセントルイス、シカゴ、セントポールなどの栽培場を見学、コーテスピルの栽培場では6ヶ月間の実習をうけます。さらに、翌年1月には渡欧しフランスで菌類学者のCostantin博士やHarding氏から胞子培養法などの教えをうけ、その後ベルギーやイギリスの栽培場も訪ねます。こういった視察によって、栽培方法や技術のみならず、種菌板の製法や菌の培養法などより深く科学的な知識を身につけることができ、帰国後、日本での成功に大いに役立ちます。

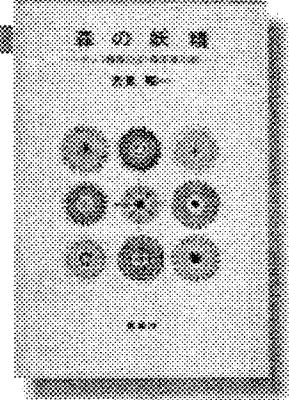
ヨーロッパにおいては250年ほど前から栽培の歴史があり食用とされていたマッシュルームですが、日本ではほんの70年ほど前まで人々に名前さえも知られていませんでした。

大正10年(1921)6月、マッシュルーム栽培の最新知識と技術を身につけた彦三郎は、17年ぶりに日本に帰国し京都に森本農園という栽培舎を建て、そこで日本で初めてのマッシュルーム栽培に成功します。また、輸入に頼っていたマッシュルーム種菌を日本で製造することにも成功。さらにマッシュルーム缶を製造し外国へ向けて輸出するなど、マッシュルーム栽培を事業としても成功させます。そんな折、共同経営の話が舞い込み、日本シャンピニオン(株)を設立しマッシュルームの生産、販売を行いますが、倒産という事態に追い込まれるなど苦しい時期を何度か経験します。しかし、そのような中でも彼は栽培法の研究を日々重ねていき、ほだ木などを必要としない画期的な「おがくず人工栽培法」を考案。シイタケ、エノキタケ、ナメコ、ヒラタケ、マイタケなどといったキノコを、おがくずで栽培させることに成功するのです。これは、季節を問わず、しかも大量に発生させることができ、そのうえ、農村だけでなく一般家庭や工場栽培も可能にするという利点がありました。また、自らの研究と実験による成果であるこれらの栽培法を、少しでも多くの人に知ってもらおうと、森本農園に研修生と実習生の制度を取り入れ、多くの人々に技術指導を行い、日本のキノコ産業の発展につとめました。このようにキノコ栽培一筋であった彦三郎氏は、昭和24年(1949)、栽培舎の整備中、痛んでいた板が折れ階下に落ちてしまうという事故に遭い63歳で帰らぬ人となりました。

参考：吉見昭一著「森の妖精」(偕成社)



森本彦三郎さんについては、吉見昭一先生がお書きになられた「森の妖精」(偕成社)という本にその生涯がたいへん詳しく描かれています。彦三郎さんがキノコ栽培を始めたきっかけから、研究と自らの経験によって栽培法を発明し成功に至るまでの日々や、馬糞に生えるキノコを栽培しているなどと嘲笑や変人扱いされながらも、ひるまずにマッシュルームを世に送り出していく姿などが実によく描かれています。子供向けの本ですが大人でも充分読み応えのあるたいへんおもしろい本です。しかし、残念ながら出版元にて品切れ重版未定だそうですので図書館などで探してみてください。



### 【訂正】

前号の「グラノセッセンタケ発見記」において千葉県よりまだ発見されていないとありますが、実は1991年の9/28に風土記の丘で行われた談話会の採集会のときに採集されていました。  
(標本番号CBN-FB6122) お詫びして訂正致します。(小沼)

### 【編集後記】

\*森本彦三郎さんの最初のマッシュルーム栽培舎であるコードス入りの黒レンガ造りの建物は、現在もマッシュルーム栽培発祥の地として京都市伏見区に残っているそうです。\*パソコンならおまかせ、という強い味方の近田さんが編集をしてくださることになりました。この号からページメーカーで紙面一新です。\*前号、発送作業を全て終りホッと一息し、どれどれと会報を見直したところギョギョ、7ページの右端が印刷されていない！目の前が真っ暗になってしまいました。たんなる印刷ミスです。よく見直して発送作業をすればよかったのですが、後悔先に立たずとはこのことです。会員の皆様ごめんなさい。(良)

\*レイアウトの意見が合わず夫婦関係にヒビを入れながらの編集作業は実にスリリングな体験です。そういえば、この間、生まれて初めて食べたカンゾウタケも妙にホロ苦かったなあ、('ー')なんて、感傷にひたつてい場合ではありません。次回もがんばります。たくさん

の原稿をお待ちしております。(節)

\*わたくしが編集のお手伝いをさせて頂こう  
と思いましたのは編集作業を通じてキノコの知識を広げられればなどという虫の良いことを考えたからであります。しかしながらメキリギリギリでないとなかなか仕事を進めない悪いクセでご迷惑おかけしました。\*今回は「森の妖精」というたいへん面白い本を読ませていただきました。信念と努力でマッシュルームの父となった森本氏はわたしと正反対のような人です。これからマッシュルームを食べるときはころしていただくつもりです。  
レイアウト中のB.G.M.はマッシュルームにちなみビートルズを聴いていました。(隆)

---

千葉菌類談話会通信 No.10 1995年6月14日印刷、発行

会長：腰野文男

事務局：千葉県立中央博物館 植物学研究科気付「千葉菌類談話会」

千葉市中央区青葉町 955-2

電話：043-265-3921 Fax：043-266-2481

郵便振替口座：00100-5-550400 「千葉菌類談話会」